

基礎学力テスト 問題

注：解答はすべて解答用紙に記入のこと。なお、出題作品には、設問の都合で原文の表記を変えているところがあります。

(その一)

□ ① 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

「他人に依存せずに一人で生きていけること」というのは、自立のように見えて、社会的孤立に繋がりがねないと思つていきます。他者に頼らず全部を一人で抱え込むことでもあるからです。

「一人で生きていく」のは、心身にエネルギーがみなぎつていて、一定程度の経済的基盤があれば、他者に遠慮せずに済むし、自分勝手にできる、という意味で、楽でもあります。そういう意味では、自己利益の最大化、にもつながるのかもしれませんが。なるべく依存を減らしても生きていけるよう、頑張つてリスク管理をしておられる方も、いるかもしれません。

でも、新型コロナウイルスにかかる、地震や豪雨災害の被害を受ける、事故に遭うなどは、自己管理だけでは防ぎようのないことです。そういう時には、^②自分の身の安全を確保した上で、他の人のためにできる事を、できる範囲でする。皆さんもそういう経験をお持ちだと思います。それは、社会的孤立とは反対の、身近な周囲からの連帯だと思つたのです。

これを「面倒なしがらみだ」と思う人もいるかもしれませんが。でも、あなたが赤ちゃんだった頃、あなたへのケアを「面倒なしがらみ」だと周囲の大人がキョヒしていたら、そもそもあなたはこの世に存在していません。つまり、あなたがここまで生き延びてきたのは、一人で暮らせなかった(経済的にも身体能力でも自立ができていない)あなたのことを、気にかけて、手を差し伸べてくれた人がいたからです。あなたのソングンを大切にし、あなたが選んだり決めたりするニーズをあなたは支えてもらったからこそ、暮らせています。そういう意味で、生まれた瞬間から、あなたのニーズは、あなたと関係性のある大人が、義務として満たそうとしてきたからこそ、あなたは「いま・ここ」にいるのです。

……と偉そうに書いていますが、私自身を振り返ってみると、子どもが生まれる前までは、これらのことを全く意識していませんでした。自分が努力した結果得られた成果も、できなかったことも、自己責任だと思ひ込んでいました。睡眠時間を削つて、必死になって働いていました。だからこそ、娘が生まれ、出張や講演などを断り、娘のケアにエネルギーを注いで仕事をしていないと、仕事の世界から置いてきぼりになる恐怖を抱えていました。

しかし、その時の私に大切な別の価値観を教えてくれたのは、他ならぬ赤ちゃんの娘でした。彼女のニーズを満たすためには、泣いているときに、お腹がすいているのか、眠たいのか、しんどいのか退屈なのか……を見極める必要があります。それは彼女との関係性を深めないと、できないことです。確かに、娘に関わるのは、親としての義務・責務かもしれませんが。でも、そうやって娘に関わり続ける中で、娘のニーズが満たされた時に見せてくれる笑顔は、文字通りの値千金です。この子のおかげで父親になれた、と関係性の中での自らの存在を確かめ直すこともできました。それは、娘の依存に基づく親密な関係だけれど、娘から父としてショウニンされたことが、私自身の生きがいにもなっている、という意味では、私も娘に依存する、相互依存的な関係でした。

私は娘がすくすくと育つようにケアをしてニーズを支える一方で、娘を通じて私はケアの面白さを教わり、娘を通じて父として生きる醍醐味を教わった。そういう意味で、互いが互いを必要とする関係性であり、この相互依存

(その二)

的な関係性こそが、ケアの醍醐味だと思うのです。

私が娘から学んだ相互依存の世界は、弱肉強食の自己利益の世界とは真逆の世界です。

(中略)

私は、娘を育て、家事や育児の責任を引き受ける中で、父^③としての私を形作ってきました。彼女への責任を引き受けることを通じて、私が父として生きる意味や価値があると、自分自身を肯定的に認められるように感じてきました。そういう意味で、娘への責任を担うことは、私にとっては懲罰ではなく、私を力づけてくれる(エンパワーしてくれる)行為でした。娘への関わりを通じて、親としての責任を引き受ける主体として成長したようにも思います。

(竹端 寛著『ケアしケアされ、生きていく』より)

問一 —— 線部 a ~ e について、カタカナを漢字で、漢字をひらがなで答えなさい。

問二 —— 線部①について、筆者が社会的孤立に繋がりにかねないと考えている理由を文中より抜き出しなさい。

問三 —— 線部②と同じ内容を示す部分を本文中より抜き出しなさい。

問四 —— 線部③について、筆者が父としての自分を形作るために必要としたものについて、次の中から最も適切なものを選択しなさい。

- ア 心身にエネルギーをみなぎらせ、一人で生きていくこと
- イ 自分が努力した結果の善し悪しを自己責任として受け入れること
- ウ 娘との相互依存関係を構築すること
- エ 弱肉強食の自己利益の世界を受け入れる
- オ 出張などを断り、娘のケアにエネルギーを注ぐこと

問五 筆者にとって娘への責任を引き受けることはどのような行為であると述べているか。本文中より抜き出して答えなさい。

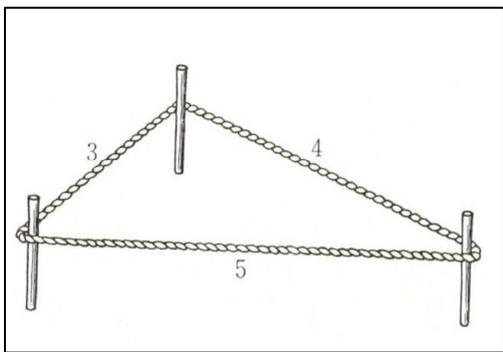
(その三)

□ 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

推理小説は、推理を重ねることによって、犯人をみつけだすカテイ^aを書きつづったものだということがわかりました。しかし推理というものは、犯人探しだけにつかわれるものではありません。もっと大切な仕事、つまり真理の探し出しにも使われるものです。人間は今までに数々の科学的な定理やホウソク^bを発見してきました。そしてそうした科学的知識の発見のカテイ^aを知りたいと思えば、科学史の本を読めばいいのです。こうして科学史とは、科学的知識の発見物語だといえます。そしてこれは推理小説が犯人の発見物語であるのおなじことです。しかも科学の発見物語は推理小説にまさるともオトラ^cないだけの興味ある推理の積み重ねを含んでいるはずですが、残念なことにいままで書かれた教科書ふうの科学史の本のほとんどは、推理小説ほどはおもしろくありません。これはそうした本を書いた人の責任でして、科学上の発見の物語は実はとてもおもしろいはずのものなのです。

さてこんどはピタゴラスの定理を例に使って、真理が発見されるカテイ^aを考えることにしましょう。ピタゴラスの定理は□あ□の定理ともいわれます。ある三角形が直角三角形ならば、斜辺の平方は他の二辺の平方の和に等しく、逆に、ある三角形の斜辺の平方が他の二辺の平方の和に等しければ、その三角形は直角三角形だといったものです。

さてこの定理のいちばん簡単な場合が3、4、5の場合、つまり $3^2+4^2=5^2$ といった場合で、こうした特殊なケースはバビロニア人、古代エジプト人、古代インド人、古代中国人をはじめ、ほとんどの古代ミンゾク^eがひじょうに古くから知っていました。彼らは、下図で示したように、輪にした縄を3対4対5の比で分けたところにくいを当てがって、ぴんと引っ張ることによって、地面の好きなところに直角をつくりだすことを知っていたのです。



彼らはやがて、そうした直角づくりの比は3:4:5だけでないに、5:12:13や(A) ..

(B) .. (C) や8:15:17といったものもあるということを見つけました。ですからこれまでの発見を文章で表現しますとつぎのようになります。

縄の分割の仕方を3:4:5にすれば□い□が出現する。

縄の分割の仕方を5:12:13にすれば□い□が出現する。

.....

以上のような発見からはまだ□あ□の定理の発見にはほど遠いのですが、やがて彼らはつぎのことに気がきます。

縄の分割の仕方を $3^2+4^2=5^2$ の式の中の3と4と5の割合にすれば、□い□が出現する。

縄の分割の仕方を $5^2+12^2=13^2$ の式の中の5と12と13の割合にすれば、□い□が出現する。

.....

(その四)

ここまできますと あ の定理にだいぶ近くなりましたが、まだ完全ではありません。というのも第一に、例えば「3と4と5の割合にすれば」という条件は、ワン・オブ・ゼム^①(多くの中の一つ)でして、それゆえ特殊であり、定理というにはなにかそぐわない感じがするからです。そしてじつさい、直角を作るには3:4:5でなければならぬということではなく、5:12:13であってもその他であってもかまわないのです。そしてこのことは「3:4:5ならば直角三角形が出現する」は真ですが、その逆である「直角三角形が出現していれば3:4:5である」は必ずしも真ではないということを意味するのです。それでは、定理の名に値する一般的な文章をつくりだすにはどうすればいいでしょうか。

(山下 正男 著「論理的に考えること」より)

※ 真・・・正しいか正しくないかが明確に決まる文や式が、正しいとき。

問一 線部 a↘e について、カタカナを漢字で、漢字をひらがなで答えなさい。

問二 本文中に使われている対義語を抜き出し、漢字で答えなさい。

() ↔ ()

問三 (A)(B)(C) にあてはまる数字の組み合わせが正しい記号をア↘エの中から答えなさい。

	(A)	(B)	(C)
ア	6	1 4	1 5
イ	7	2 4	2 5
ウ	8	3 4	3 5
エ	9	4 4	4 5

問四 本文中の あ ・ い に入る語句を漢字で答えなさい。

問五 線部①カタカナを英語のスペルで書きなさい。

問六 線部②「直角三角形が出現していれば3:4:5である」は必ずしも真ではないということはどういうことか説明しなさい。

三 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

冬は旅行に不向きな季節とされている。

寒い、日が短い、風景が荒涼としていて、新緑も紅葉もない、花も、ほとんど咲いてくれない、観光地のバスが運休になる。

しかし、私は冬の旅が好きだ。「日本が広がる」からである。多様になると言いかえてもよい。

旅は日常性から脱出し、^a異質な風土、人情・風俗に接することに意義があると思う。

人情・風俗のほうは近時とみに画一化され、異質に触れる機会が少なくなってきたのは残念だが、風土のほうは厳として異質を保っている。

それが、もつとも際立つのは冬である。気温を例にとると、夏休みの旅行者で賑わう八月の平均気温は、旭川が二〇・四度、鹿児島は二六・四度で、差は六・〇度にすぎない。

これにたいし、一月の平均気温となると、旭川は氷点下八・五度、鹿児島が七・〇度でその差は一五・五度に達する。この数字で見ると、冬の日本は夏の二倍半も「広くなる」のである。しかも氷点下を境にしているので、「質」の変化をともしなう。

異質に接するのが旅であるとすれば、冬こそ最適の旅行シーズンではないか。

けれども、団体旅行のポッシュウ^b広告などを見ると、例外はあるが、暖地や温泉を目指すのが多い。北国の人びとの場合であれば、拍手で送り、迎^cえたいが、東京などの概して暖かい地方の住人まで暖かい地方へ出かけようとするのは、旅としての意味が薄いような気がしてならない。もとより、ご自由であって、どうでもいいことだが。

が、思いきって、冬ならではの異質に触れてみてはどうだろう。太平洋側に住む人に、ぜひ、とおすすめしたいのは、やはり北海道である。

厳冬の北海道の原野をさまよえば、凍死しかねない。吹雪に見舞われれば視界がかすみ、方向がわからなくなつて危険である。峠越えなどは命がけだ。

けれどもそれは昔の旅の話であって、今日では自動車やバスの窓から、楽々と安全に冬の北海道に接することができる。そして日本は広いぞ、スゴイぞと思ひ知るのである。そこには避寒や温泉めぐりでは得られない「旅の感動」がある。

とくに北海道のオホーツク海側の岸を埋めつくす流水群は絶品だ。現地の漁業者にとっては迷惑きわまる存在であろうが、あの、きびしく荘厳な大景観は、日本にすることを忘れさせるものがある。

北海道の、しかもオホーツク海岸では遠すぎるという人も多いだろう。流水だけが目的なら、東京から二日あれば十分だが、すくなくとも片道は空路に頼らなければならぬ。

飛行機はコワイ(私もコワイ)という人に、アンチョコ^cにおすすめるのは、日本列島の横断である。これならば鉄道による日帰り、区間によっては半日での往復が可能だ。

幅一〇〇ないし二〇〇キロ程度の細い列島なのに、冬に横断すると、なにゆえにかくもちがうのかと、造物主の不公平さに義憤^dを覚えるほど、その差はレキゼン^eとしている。

越後の塩沢の人で、雪国の生活と伝承を世にあらわした鈴木牧之の『北越雪譜』の一節をかりれば、

②「ことな暖地の人、花の散るに比べて美賞する雪吹と其異ること、潮干に遊びて楽しむと津波に溺れて苦しむとの如し」というほどにちがうのである。

上越新幹線という便利なものができて、この差を信じがたいほどに短期間で見聞できるようになった。高崎は上州の空っ風で快晴、つぎの上毛高原も晴れ、ところが大清水トンネルを抜けると、ドカ雪の越後湯沢・その間、わずかに十分にすぎない。新幹線は速すぎて味気ない乗りものだが、こうした冬ならではの演出には目を見はる。

上越新幹線ほどではないが、そうした陰と陽を際立たせる線路や道路は、いくらでもある。中国地方の縦断線はすべてそうであるし、鹿児島本線の博多―久留米間でも気象が変わる。もちろん冬だけの眼福^fである。

そして、旅のもう一つの楽しみである味覚・スワイガニ、生ガキ、フグ……。いずれも冬が旬だ。

雪の降りつづく駅において、人通りの少ない町の一軒の店に入る。薪が燃えていてケムイ、というような店で、これらを賞味しつつ、地酒で一献を傾けるのは、冬の旅の醍醐味である。

そんなとき、日本は旅するに値する だと思う。

(宮脇 俊三著『終着駅』より)

問一 〓線部 a～f について、カタカナを漢字で、漢字をひらがなで答えなさい。

問二 〓線部①のように筆者が考える理由を答えなさい。

問三 〓線部②の意味に最も近いものを次の中から選びなさい。

ア 暖かい土地の人が、花の散るようだと眺める吹雪と同様である。潮干狩りを遊び楽しむのと、津波に溺れ苦しむのとは異なる。

イ 暖かい土地の人が、花の散るようだと眺める吹雪とはまったくわけが違う。潮干狩りを遊び楽しむのと、津波に溺れ苦しむのと同じくらいの違いである。

ウ 暖かい土地の人が、花の散るようだと眺める吹雪とはまったくわけが違う。潮干狩りを遊び楽しむのと、津波に溺れ苦しむのとは違う。

(その七)

(解答はすべて解答用紙に記入のこと)

問四 本文中の を適切な語句で埋めなさい。